

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ファッションビジネス科	平成10年文部省告示 第179号																							
学科の目的	本科は、ファッションのトレンド分析や商品企画、ショップの企画運営や販売促進等ファッション業界全般の知識や手法を習得する。さらにショップ実習やコーディネイト実習を通してショップ運営の一連の流れを習得し、業界での即戦力となる人材を育成する。																									
認定年月日	平成28年2月29日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2 年	昼間	1920時間	390時間	780時間	750時間	0時間	0時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
40人	41人	0人	4人	23人	27人																					
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																						
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動：無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ファッションアドバイザー、アパレル店舗マネージャー、バイヤー、ファッションコーディネーター、プレス、スタイリスト、マーチャンダイザー等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー。 ■卒業生数 27 人 ■就職希望者数 27 人 ■就職者数 25 人 ■就職率 92.6 % ■卒業生に占める就職者の割合 92.6 % ■その他 ・進学者数：0人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生次生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>29人</td><td>24人</td></tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定初級</td><td>③</td><td>27人</td><td>19人</td></tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td><td>③</td><td>28人</td><td>15人</td></tr> <tr> <td>商業ラッピング検定3級</td><td>③</td><td>28人</td><td>14人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ワールドストアパートナーズ東海北陸支店主催 東海地区学生接客ロープレコンテスト 準グランプリ			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	29人	24人	パーソナルカラー検定初級	③	27人	19人	ファッションビジネス能力検定3級	③	28人	15人	商業ラッピング検定3級	③	28人	14人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
AFT色彩検定3級	③	29人	24人																							
パーソナルカラー検定初級	③	27人	19人																							
ファッションビジネス能力検定3級	③	28人	15人																							
商業ラッピング検定3級	③	28人	14人																							
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 令和2年4月1日時点において、在学者45名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者44名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良、経済的事情のため。		■中退率 2.2 %	■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	http://www.sdc.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ファッション流通業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄プロパティマネジメント 取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
小松 真人	株式会社ツヅキ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長 兼 プライダル・ビューティー科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
境 香良里	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 10:00～12:00

第2回 令和2年11月30日(月) 10:00～12:00(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションアドバイザーがどのような職種かを体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開ききっかけとなるような指導をお願いしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき担当教員が事前指導を行い、企業講師に引き継ぐ。終了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
接客技術Ⅰ	ファッションアドバイザーの基礎知識の習得とともに、授業を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。	株式会社 ワールド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ビューティ・ファッション業界の半歩先を知る」短期集中ビジネスセミナー（連携企業等：WWD）

期間：2020年12月 対象：ビューティー業界関係者、ファッション業界関係者

内容：デジタルツールの活用や環境問題、海外事情などを通して、ビューティー業界の2021年に向かうべき展望を探る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：1月5日（火） 対象：学校所属全教員

内容：中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッション・トレンド速報セミナー」（連携企業等：株式会社プロジェクト）

期間：未定 対象：ファッション業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容：ファッション業界の今と将来のトレンド情報を収集し、今後のファッション業界に必要なスキルを得る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：未定 対象：学校所属全教員

内容：学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程 ファッションビジネス科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	30	1		○		○	△	○		
○			IT活用	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○		○		○		
○			ファッションビジネス論	ファッションビジネスの変遷を背景にした広範囲な領域のビジネス活動を包含しアパレル業界の構造を理解する。	1・通	30	1	○			○		○		
○			モード史Ⅰ	過去のトレンドを学び、その知識を説得力あるセールストークに活かす。	1・通	30	1	○			○			○	
○			モード史Ⅱ	これからのトレンドに影響を及ぼす年代の服飾を学ぶ。学んだ知識を使って、コーディネート企画・表現してみる。	2・通	30	1	○			○			○	
○			ファッションブランド研究Ⅰ	能動的に物事を進める力、リサーチ力、コラージュ制作などクリエイティビティを養う。ブランドリサーチとコラージュ作品の作成を行なう。	1・前	30	1		○		○			○	
○			ファッションブランド研究Ⅱ	能動的に物事を進める力、リサーチ力、コラージュ制作などクリエイティビティを養う。自分が目指す職業等に当てはめて、企画、テーマを練ってクリエイトする。	2・後	30	1		○		○			○	
○			マーケティングリサーチ	顧客を理解する、顧客目線で商品・サービスを考える。「モノ」と「コト」をデザインする「ライフスタイルの提案」シートを作成、発表する。	1・後	30	1		○		○			○	
○			セールスプロモーションⅠ	プロモーションとマーケティングの関連の基礎を学び、小売店舗における販売促進の基本的手法と重要性を理解する。	1・通	30	1		○		○			○	
○			セールスプロモーションⅡ	アパレル・ファッション業界での活用例を知り、就職先の業務に活かせるようになる。動画を活用した、セールスプロモーションを行うことができる。	2・前	30	1		○		○		○		

○			コピーライティング	作り手、売り手側の立場から発信する言葉を創作する力を身につける。言葉によってファッションに関心を引き付ける方法を考え、創作し、発信するまでの過程を経験する。	2・通	30	1		○		○				○		
○			デザイン発想Ⅰ	基本操作習得の基礎から、ショップロゴやビジュアルを用いたフライヤーなどをPCでデザインできる応用力までを学ぶ。	1・通	30	1		○		○					○	
○			デザイン発想Ⅱ	卒業制作展に関わるレイアウト技法習得による平面デザイン表現力を養う。伝えるためのデザインを中心に、PCを使用したグラフィックデザイン基礎力を身に付ける。	2・後	30	1		○		○					○	
○			マーチャンダイジング	店頭演出計画の立案や店舗運営時の店内業務に必要な VMDの基礎知識を学び、実習を通してヴィジュアルプレゼンテーションのスキルを習得する。	1・後	60	2	○			○					○	
○			VMD	店舗、売り場づくりの基本である【商品陳列】から【演出】についての一般的な知識と技術の習得を行なう。	1・前	30	1		○		○					○	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	アパレルメーカーの様々なシーンで必要となるファッションデザイン画、特に企画や展示会などの資料 作成に欠かせないハンガーイラト、生地スワッチ、を理解し描けるようにする。	1・通	30	1		○		○				○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	企画提案の為に、具体的でイメージの伝わるデザイン画が描けるようになる。スタイル・素材・ディテールを自由に描き分け、着用イメージをデザイン画にする事を学ぶ。	2・後	30	1		○		○					○	
○			アパレル素材論Ⅰ	繊維から布地になるまでの各過程における状態の素材を、実際に見て、触れながら学習する。	1・前	30	1	○			○					○	
○			アパレル素材論Ⅱ	各々の素材特性を理解し、接客時に価格以上の付加価値を感じてもらえるような提案、アドバイスが出来るよう知識を習得する。	2・前	30	1	○			○					○	
○			服飾造形Ⅰ	人体構造や原型についての基礎知識を学び、縫製についての基礎、応用を習得する。	1・通	90	3				○	○				○	
○			服飾造形Ⅱ	採寸方法、修繕についての基礎について実習を行うを目指す。	2・通	60	2				○	○				○	
○			色彩学	色彩理論の基礎を学習する。感性を磨くと共に、色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○					○	
○			パーソナルカラーⅠ	パーソナルカラー検定モジュール1（初級レベル）合格を目指します。	1・後	30	1	○			○					○	
○			パーソナルカラーⅡ	パーソナルカラー検定モジュール2（上級レベル）の合格を目指します。	2・前	30	1	○			○					○	

○			コミュニケーション技法	販売技術や接客マナーを習得する上で前提となる、「コミュニケーション」の重要性や基本的な考え方を学ぶ。	1・前	30	1		○	○			○	
○			接客マナーⅠ	新人ファッションアドバイザーが3ヶ月で身につける基礎項目（接客の知識と技術）の習得を目指します。	1・通	60	2		○	○			○	○
○			接客マナーⅡ	販売現場での即戦力となる具体的な応対手法の習得と、全国ロープレイング大会に向けたトレーニングの実施。	2・通	60	2		○	○			○	
○			ラッピング装飾	商業ラッピングの基礎知識を身につけ慶弔贈答の基本的な包装ができる。『商業ラッピング3級検定試験』の合格を目指します。	1・後	30	1		○	○			○	
○			外国語接遇	店頭販売時において、外国人観光客への基本的な接客用語を外国語に変換し対応することができるようにする。	2・通	30	1		○	○			○	
○			スタイリングワークⅠ	ファッションコーディネートをする上で必要な、アイテム知識、トレンド知識、色・素材・柄・感覚に視点を置いた論理的なコーディネートの基本を学び自身の表現手法の幅を広げる。	1・通	30	1		○	○			○	
○			スタイリングワークⅡ	商業的なコーディネート（店頭におけるスタイリング）および芸術的なコーディネートの双方を習得する。	2・通	30	1		○	○			○	
○			ヘアメイク実習Ⅰ	ヘアメイクの知識、基本的な技術を学びファッションをトータルでスタイリングする力をつける。ファッションに合ったヘアメイクを学び、自己表現をの可能性を広げる。	1・通	30	1			○	○		○	
○			ヘアメイク実習Ⅱ	様々なテイストやトレンド、素材を取り入れ、活用できる力を身につける。基礎をおさえ、自由に柔軟な発想でヘアメイク作品を制作する。	2・後	30	1			○	○		○	
○			ショップマネジメントⅠ	店舗運営において必要な売上管理・仕入れ管理・在庫管理等における基本知識を習得する	1・後	30	1	○			○			○
○			ショップマネジメントⅡ	店舗運営において必要な売上管理・仕入れ管理・在庫管理等における基本知識を実習店舗の企画・運営・終了後の分析を通し、実践的に理解する。	2・前	30	1	○			○			○
○			ビジネスプランニングⅠ	企画を立てる上での基本となる考え方やアプローチの仕方を学ぶ。	1・後	30	1		○	○			○	
○			ビジネスプランニングⅡ	具体的なビジネスプランを組み立てるプロセスを学ぶ。「起業」も視野に入れた仕事のイメージ作りとビジネス感覚を身につける。	2・通	60	2		○	○			○	
○			実習店舗	商品仕入から販売促進、店舗演出、接客、ショップマネジメントなどの運営における全ての業務を行い、店舗を形成する業務の一連の流れと全体の構成を理解する。	2・通	60	2			○	○	△	○	△

○			キャリアプランⅠ	自分の特性を客観的に把握しキャリアプランを立てる。ファッション業界の企業の選考方法を把握して、それぞれの選考に備える。	1・通	30	1		○	○		○		
○			キャリアプランⅡ	実際に始まる就職活動に対する実践力を養い、就職活動を通して、社会人としての自覚を持てるよう学習する。	2・前	30	1		○	○		○		
○			インターンシップⅠ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	1・通	30	1			○		○	○	
○			産学連携プロジェクトⅠ	校外イベント、ボランティアへの参加。外部企業、社会との連携を図り実体験を重ねる。	1・前	30	1			○	○			○
○			産学連携プロジェクトⅡ	学校自主企画イベントや他のイベント運営を通して行動を学習する	2・通	30	1			○	○			○
○			卒業研究	ファッションアイテムについてのバックグラウンドや「人・物・事」との関連性を研究する。	2・後	180	6			○	○		○	○
○			ファッションビジネス特別実習Ⅰ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	1・通	30	1		○		○			○
○			ファッションビジネス特別実習Ⅱ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	2・通	30	1		○		○		○	
	○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○		○	○	
	○		インターンシップ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2			○		○	○	
	○		ボランティア活動	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2			○		○	○	
		○	チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1			○	○		○	
	○		チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○	
	○		チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○	
合計				53科目	1920単位時間（64 単位）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

必須科目の成績評価において不可（評価点 60 点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の 85 % 以上であり、学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	18 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の 3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ファッションデザイン科	平成12年文部省 告示第15号																			
学科の目的	本科は、ファッション業界での活躍を目指した総合的な学習を行う。衣服作りの基本を始めとして、オリジナルブランドを立ち上げる経験を通じて企画の立て方、衣服のデザイン、パターン作成、実際の衣服製作、店頭での販売など、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。																					
認定年月日	平成29年2月28日																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																
3 年	昼間	3030時間	270時間	750時間	2010時間	0時間	0時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
60人	58人	0人	4人	21人	25人																	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																			
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日	卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																			
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。	課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動：無																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ファッションデザイナー、パタンナー、マーチャンタイザー、アパレルプランナー、 ファッションリフォーマー、衣装デザイナー、服飾縫製、裁断士等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー。 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.9 % ■その他 ・進学者数：0人 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名 種 受験者数 合格者数 <table border="1"> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>12 人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング検定3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング検定2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>3人</td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・第58回技能五輪全国大会 洋裁職種 銅賞獲得 ・第95回装苑賞 ノミネート ・社会福祉法人東益津福祉会 特別養護老人ホーム高麗ユウフホーム 装苑賞・提案・採用				AFT色彩検定3級	③	12 人	11人	AFT色彩検定2級	③	12人	4人	パターンメイキング検定3級	③	11人	11人	パターンメイキング検定2級	③	9人	3人
AFT色彩検定3級	③	12 人	11人																			
AFT色彩検定2級	③	12人	4人																			
パターンメイキング検定3級	③	11人	11人																			
パターンメイキング検定2級	③	9人	3人																			
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 令和2年4月1日時点において、在学者49名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者44名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。	■中退率 10.2 %																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換などを行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設け、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。また、広く、ファッション・アパレル業界の動向や必要とする素養等を伺い、本校のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄プロパティマネジメント 取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
小松 真人	株式会社ツヅキ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長 兼 プライダル・ビューティー科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
境 香良里	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 10:00～12:00

第2回 令和2年11月30日(月) 10:00～12:00(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションデザイナーがどのような職種か、ファッションデザイナーとして学んでおくべきことを、を体験的な授業を通して指導してもらえる企業を選定している。また、各自が将来展望を開ききっかけとなるような指導をお願いしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき担当教員が事前指導を行い、企業講師に引き継ぐ。終了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
SPA企画	マーケットに流通している顧客視点をバランス良く取り入れた自分達のオリジナルなデザインとブランドを作る方法を学ぶ。	合同会社中島デザインオフィス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ビューティ・ファッション業界の半歩先を知る」短期集中ビジネスセミナー（連携企業等：WWD）

期間：2020年12月 対象：ビューティー業界関係者、ファッション業界関係者

内容：デジタルツールの活用や環境問題、海外事情などを通して、ファッション業界の2021年に向かうべき展望を探る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：1月5日（火） 対象：学校所属全教員

内容：中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ファッション・トレンド速報セミナー」（連携企業等：株式会社プロジェクト）

期間：未定 対象：ファッション業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容：ファッション業界の今と将来のトレンド情報を収集し、今後のファッション業界に必要なスキルを得る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：未定 対象：学校所属全教員

内容：学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(服飾・家政 専門課程ファッションデザイン科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	本校の学生としての自覚を持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	30	1		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	2年生として就職活動の心構えを持たせるために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	30	1		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	社会に出るための準備として、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げるとともに社会人基礎力をつける。	3・通	30	1		○		○	△	○		
○			服飾造形ⅠA	服造りにおいて、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠB	服造りにおいて、縫製時に使用する基本的な道具の使い方・基礎的な手縫いのテクニック・各始末の仕方などを学習し身につけ、手縫いで基型を補正して自身に合った原型を作る。	1・前	30	1			○	○			○	
○			服飾造形ⅠC	シャツについての基礎知識を踏まえて、その基本構造・基本製図・合理的な縫製法を身に付ける。	1・前	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠD	基本的なタイトスカートを製図し補正して、体に合わせた原型を作る。またそれを使用してデザイン展開されたスカートを制作。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠE	ワンピース製作を通して、縫製工程の手順、素材に対する知識、副資材の扱い等の基礎を学習する。	1・後	90	3			○	○			○	
○			服飾造形ⅠF	パンツの基本的な構造を学び、作図・仮縫いを経て体に合わせたパンツを縫製する。	1・後	90	3			○	○			○	○
○			服飾造形Ⅱ	1年次に学んだ知識と技術を応用発展させ、縫製工程を理解した上で工業用パターン、工業用技術を身につける。題材としてジャケットを製作する。	2・前	120	4			○	○			○	
○			パターンメイキングⅠ	人体の構造に基づくパターンメイキングの基礎並びに立体の展開方法を学習する。さらに工業用パターン、グレーディングを身につける。	1	120	4			○	○			○	
○			パターンメイキングⅡ	パターンメイキングⅠを発展させ、ジャケットなどのパターンを学習し、パターンメイキング技術検定試験3級取得を目指す。	2	90	3			○	○			○	

○		パターンメイ キングⅢ	パターンメイキング技術検定試験２級取得を目標 に、アパレル企業のパターンメイキングについて 学習する。	3	90	3			○	○			○	
○		ドレーピング Ⅰ	立体裁断の基礎を学習し、ベーシックスローパー の組立てを身につける。トワルの取り扱いとピン ワーク〜ドラフティングを学習する。	1	30	1			○	○			○	
○		ドレーピング Ⅱ	ドレーピングでシャツ、ジャケット、ドレープの 組立て方を学習する。パターンメイキング検定３ 級の実物製図と連動させ、ドレーピングの流れを 学ぶ。	2・ 前	60	2			○	○			○	
○		アパレルCAD Ⅰ	CADシステムの理解とアパレル業界での必要性 を認識する。CADの操作の基礎を学ぶ。	2・ 後	30	1		○		○			○	
○		アパレルCAD Ⅱ	アパレル業界に就職するために必要となるCAD の操作スキルを身につける。これまで手で行なっ ていたパターン作成をCADに置き換える基本的 な手順を覚え、効率化の手法を学ぶ。	3・ 前	30	1		○		○			○	
○		デッサン	デザインデッサンをする上での基本となる考え方 やアプローチの仕方を学ぶ。	1	30	1		○		○			○	
○		ファッション デザイン画Ⅰ A	デザイン画を描くための基礎を学習する。絵を描 く事の楽しさにふれ、自身のデザインを表現する 為の技術を身につける。	1	60	2		○		○			○	
○		ファッション デザイン画Ⅰ B	人体の構造を学び、プロポーションを正しく理解 する。	1	30	1		○		○		○	○	
○		ファッション デザイン画Ⅱ	新しいファッションデザインを創造するための発 想方法を身につける。公募のコンクールに応募し 入賞を目指すことで、ファッションデザインの感 性と理解を高める。	2	60	2		○		○			○	
○		ファッション デザイン画Ⅲ	デザイン発想や描画技術力の集大成として、「デ ザイン・ア・ラ・モード」にてショーと展示を行 う。デザインと素材を絡めながら、トータルな提 案力を高める。	3	60	2		○		○		○		
○		アパレル素材 論Ⅰ	アパレル製品の重要な要素である「素材」に興 味を持ち、様々な組み合わせ、最新の使いこな し方を学び、総合的な素材に関する知識を得る。	1・ 前	60	2	○			○			○	
○		アパレル素材 論Ⅱ	衣服を構成する要素の一つである、「素材」を他 の要素とバランス良く活かし、表現、具現化す ることを学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
○		色彩学Ⅰ	色彩理論の基礎を学習する。感性を磨くと共に、 色彩検定３級合格を目指す。	1・ 後	60	2	○			○		○		
○		色彩学Ⅱ	色彩の基本（３級）をふまえ、更にレベルアップ をねらい、色彩検定２級合格を目指す。	2・ 前	60	2	○			○		○		
○		ファッション ビジネス論	ファッションビジネスの変遷を背景にした、広範 囲な領域のビジネス活動を概観し、アパレル業 界の構造を理解する。	1・ 前	30	1	○			○		○		

○		マーケティング	マーケティング概念とともに、ファッション分野に特化したノウハウを理解する。3年次に控えるSPA実習を踏まえた市場調査・資料製作を実践学習する	2・後	30	1		○		○		○		
○		モード史	移り変わるファッションではあるが、過去のトレンドが今の流行のベースになる事例も少なくない。知識を説得力あるセールストークに活かすことが出来るよう事例を交えて学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○	
○		デザイン発想	多様な発想法の存在を認識し、活用できるようにする。	2	30	1		○		○			○	
○		デザインアプリケーションⅠ	adobe社のillustratorの基本的な使い方を、ハンガーイラストやデザイン画を描くことによって理解する。	1	30	1		○		○			○	
○		デザインアプリケーションⅡ	adobe社のPhotoshopを使用し、自分の作品写真等を加工する技術を学習する。adobe社のIllustratorと連携し、自分の製作したアイテムをポートフォリオ（作品集）としてまとめる。	2	30	1		○		○			○	
○		接遇マナーⅠ	社会人としての常識やコミュニケーション、マナーの重要性を知り 就活に向けた心の準備を行う。インターンシップや現場訪問を通して、企業研究を行い就活準備をする。	2	30	1		○		○			○	
○		接遇マナーⅡ	販売現場の基礎知識を学び、「売る」ための接客技術を身につける。	3	30	1		○		○			○	
○		ポートフォリオ制作	学生個々のポートフォリオ制作に必要な基本的な考え方を学び、自らのポートフォリオを制作する。	2	30	1		○		○			○	
○		生産企画実習	アパレル企業の『MD・デザイナー・パタンナー・生産』の職務を部分的に実践する。商品企画～サンプル製作～社内提案の基本的な内容や流れの理解を深める。	2	90	3			○	○			○	
○		クリエーション	マーケティング・企画・生産・販売と、アパレルメーカーに置ける実務の流れを一元的にシュミレーション学習することで、プロジェクト推進力やチームワーク力、判断力を養う。	2	120	4			○	○			○	○
○		S P A 企 画	ブランドディレクションの土台になる、ファッションリサーチマーチャンダイジング企画を組み立てる。以降、店頭販売に向けた運営方法を段階的に実践学習する。	2	60	2		○		○			○	○
○		S P A 実 習	アパレル業界におけるSPA業態の流れを実習により総合的に学ぶ。消費者を意識した実践的グループワークを行うことで、各部門の業務内容を理解する。	3	60	2			○	○			○	○
○		S P A 製 作	SPA実習における企画に沿い、販売するための商品製作を行う。付加価値を高める縫製技術を身につける。	3	210	7			○	○			○	○
○		キャリアプランⅠ	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	1	30	1		○		○			○	
○		キャリアプランⅡ	自己理解と個々の就職に対する意識を高める。コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2	30	1		○		○			○	

○		産学連携プロジェクト	デザインの発想、素材、パターン、造形などの知識を作品製作を通して身につける。	1	30	1		○		○			○	
○		卒業制作企画	卒業制作にて制作する作品のアイデアや、背景などをポートフォリオにまとめる。また、展示のやり方を自分たちで考えることによって、人にどう見せるかを学ぶ。	3	60	2		○	○			○	○	
○		卒業制作	縫製技術力を結集させた集大成として、「デザイン・ア・ラ・モード」にてファッションショー形式で作品を発表する。素材の特徴を生かした扱い方や、縫製レベルを評価する。	3	360	12		○	○				○	
○		卒業制作演出	クリエーションにおけるディレクションの集大成として「デザイン・ア・ラ・モード」にて、ショーステージと展示制作を行う。	3	30	1		○	○			○		
○		ファッションデザイン特別実習Ⅰ	ライフスタイルと共に広範囲に亘るファッションに対応するために様々なマテリアルや考え方に触れ、知識や理解の幅を広げる。	1	30	1		○	○			○	○	
○		ファッションデザイン特別実習Ⅱ	ライフスタイルと共に広範囲に亘るファッションに対応するために様々なマテリアルや考え方に触れ、知識や理解の幅を広げる。	2	30	1		○	○				○	
○		ファッションデザイン特別実習Ⅲ	ライフスタイルと共に広範囲に亘るファッションに対応するために様々なマテリアルや考え方に触れ、知識や理解の幅を広げる。	3	30	1		○	○				○	
	○	研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2		○			○			
	○	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2		○			○	○		
	○	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	3・通	60	2		○			○	○		
	○	インターンシップⅠ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2		○			○	○		
	○	インターンシップⅢ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	3・通	60	2		○			○	○		
		○ チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1		○			○		○	
	○	チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○			○		○	
	○	チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○			○		○	

	○	チャレンジプログラムⅣ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○		○		○		
	○	チャレンジプログラムⅤ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○		○		○		
合計			50	科目	3030単位時間(101 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 必須科目及び選択必須科目の成績評価において不可の評価の科目がないこと。2. 年間出席時限数が850単位時間(425時限)以上であること。3. 学納金に未納がないこと		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																														
服飾・家政	服飾・家政 専門課程	ブライダル・ビューティー科		平成22年文部省告示 第152号																															
学科の目的	本科は、ブライダル分野とビューティー分野において専門的な知識、技術を身につけると同時にサービス業界に就くための礼儀やマナーを習得する。更にコンクール参加や模擬ブライダルの企画運営を通して実践力を付けると同時にホスピタリティーの心を磨き、当業界で活躍できる人材育成を目的とする。																																		
認定年月日	平成28年2月29日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2 年	昼間	1980時間	150時間	810時間	1020時間	0時間	0時間																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
60人		82人	0人	4人	24人	28人																													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																														
長期休み	■学年始: 4月1日～4月11日 ■夏 季: 7月26日～8月30日 ■冬 季: 12月21日～1月6日 ■学年末: 3月15日～3月31日			卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。			課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動: 無																														
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ブライダルプランナー、エステティシャン、ビューティーアドバイザー、ネイリスト、メイクアップアーティスト、メイクアドバイザー、セレモニースタッフ等 ■就職指導内容 ・それぞれの適性を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターシップのフォロー ■卒業生数 39 人 ■就職希望者数 38 人 ■就職者数 35 人 ■就職率 92.1 % ■卒業生に占める就職者の割合 89.7 % ・自営業: 1名 ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業年次生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>42 人</td><td>42人</td></tr><tr><td>AFT色彩検定2級</td><td>③</td><td>23 人</td><td>12人</td></tr><tr><td>パーソナルカラー検定中級</td><td>③</td><td>40人</td><td>40人</td></tr><tr><td>パーソナルカラー検定上級</td><td>③</td><td>38人</td><td>38人</td></tr><tr><td>ネイリスト技能検定3級</td><td>③</td><td>40人</td><td>38人</td></tr><tr><td>ジュニアライセンス検定</td><td>③</td><td>40人</td><td>39人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	42 人	42人	AFT色彩検定2級	③	23 人	12人	パーソナルカラー検定中級	③	40人	40人	パーソナルカラー検定上級	③	38人	38人	ネイリスト技能検定3級	③	40人	38人	ジュニアライセンス検定	③	40人	39人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
AFT色彩検定3級	③	42 人	42人																																
AFT色彩検定2級	③	23 人	12人																																
パーソナルカラー検定中級	③	40人	40人																																
パーソナルカラー検定上級	③	38人	38人																																
ネイリスト技能検定3級	③	40人	38人																																
ジュニアライセンス検定	③	40人	39人																																
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名 令和2年4月1日時点において、在学者86名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者82名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良のため。 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。			■中退率 4.7 %																															
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 特待生: 授業料全額免除 準特待生A: 授業料の50%免除 準特待生B: 授業料の25%免除 準特待生C: 授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																		
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や准

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル・ビューティー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐藤 壽康	ショッピングセンター協会中部支部副支部長 静鉄フロアマネジメント 取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
小松 真人	株式会社ツヅキ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
岩崎 仁志	株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役 社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
村松 貴	株式会社 京都むらまつ 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
菅 麻紀	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科 学科長 兼 ブライダル・ビューティー科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
金田 真哉	静岡デザイン専門学校 ファッションビジネス科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
境 香良里	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
カルフォ 香奈	静岡デザイン専門学校 ファッションデザイン科	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 10:00～12:00

第2回 令和2年11月30日(月) 10:00～12:00(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル・ビューティー業界の重要な分野について、業界が求める能力レベルや重要項目を理解できるよう、企業との協力体制を構築し、教育内容を向上させる。同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

サービス分野に属するブライダル業界で重要な科目について、業界人に対する指導を行っている講師の指導を受ける。事前打ち合わせにより、全時間終了後の到達目標の設定、講義と演習の割振り、成績評価方法の決定を行い、これに則って授業を運営していただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
着付けⅠ	きものの名称、たたみ方等の基礎知識から着付け(自装・他装)を実習。鏡を見ないで手早く美しい浴衣姿を目指す。半幅帯の結び方を創作。	株式会社 東洋きもの文化学院
着付けⅡ	着付けに関する一般知識及び実技を身につけ、美しく装うための技と心を磨く	株式会社 東洋きもの文化学院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ビューティ・ファッション業界の半歩先を知る」短期集中ビジネスセミナー（連携企業等：WWD）

期間：2020年12月

対象：ビューティー業界関係者、ファッション業界関係者

内容：デジタルツールの活用や環境問題、海外事情などを通して、ビューティー業界の2021年に向かうべき展望を探る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：1月5日（火）

対象：学校所属全教員

内容：中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ビューティ・ファッション業界ビジネスセミナー」（連携企業等：WWD）

期間：未定

対象：ビューティー業界

内容：ビューティー業界の2022年に向かうべき展望を探る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：未定

対象：学校所属全教員

内容：学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 ブライダル・ビューティー科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をと おして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			IT活用Ⅰ	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・後	30	1		○		○			○	
○			IT活用Ⅱ	デザインの現場で必須のアプリであるデザイン系ソフトを学習し、基本的な操作法を習得する。企画書やレイアウトデザインを要する印刷物への応用力を身に着ける。	2・通	30	1		○		○		○		
○			ブライダル基礎A	ブライダル業界において基本的な知識を学習し、ブライダルファッションプランナー資格検定取得を目指す。グループ・個人での仕事の違いを把握させる。	1・通	60	2		○		○			○	
○			ブライダル基礎B	儀礼的マナーと調和的マナーを学ぶ。 ブライダル会場見学を通してブライダル業界への興味を高め、ブライダルの現場での知識を学習する。	1・通	30	1		○		○		○		
○			ブライダル実習	ブライダルドレスの歴史・様式を知る。フォーマル素材に触れ、特徴を理解した上でブライダルの場に相応しい小物を企画する。イメージボードを提示しながら、プレゼンテーションする。	1・通	30	1		○		○		○		
○			ブライダルプロジェクト	専門性、時代性にあった知識を身につけ、ウェディングコーディネーターとしての提案力を備える。ブライダルの流れを実践し専門性を磨き、トータルウェディングコーディネートを学ぶ。	2・前	60	2			○	○			○	
○			デザイン基礎	オリジナリティー溢れる新しい美を追求し、具体的な形として表現する経験を積む。	1・通	30	1		○		○		○		
○			化粧品学	最新科学情報から「化粧品学」や「栄養学」までの知識を習得することにより、人間の心と身体之美と健康を維持するためのサポートができる人材を育成する。	1・前	30	1	○			○			○	
○			メイク実習Ⅰ	スキンケアテクニックからノーナルメイクアップ及びモードメイクアップ、ファッションメイクアップまで完成させる。シュウエムラメイクアップ検定取得を目指す	1・通	120	4			○	○			○	

○			メイク実習Ⅱ	美容の現場（美容部員・ブライダルメイク・TV・撮影・メイクセラピー・メディカルメイクデモスト等）で、モデル又はお客様に適切な判断と必要な技術でメイクや接客のマナー・ルールを学ぶ。	2・前	90	3			○	○			○	
○			ネイル実習	JNAネイリスト技能検定試験3級取得を目標とし、学科・技術を身につけネイルケアサービスを行う為の基礎を学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
○			ネイルアートⅠ	JNAネイリスト技能検定試験3級取得を目標とし、ネイルアートの技術を身につけ作品作りに繋げる。	1・通	60	2			○	○			○	
○			ネイルアートⅡ	JNECネイリスト技能検定試験2級取得を目標に、サロンワークでネイルケア・リペア・ネイルアートをプロフェッショナルな知識・技術で施術できるよう学ぶ。	2・前	90	3			○	○			○	
○			ヘア創作実習Ⅰ	ヘアデザインの基本となる美容理論、美容技術の基礎を学び、ヘアアレンジにつながる技術を習得する。	1・通	60	2			○	○			○	○
○			ヘア創作実習Ⅱ	シェウウエムラコンテストを通し、1年で学んだ基礎を生かし、想像力を働かせることにより、考える力を身につけ、人に施術することを実践し、相手の心情をよみ、丁寧に扱うことにより、社会性行動力を伸ばす。	2・前	60	2			○	○			○	
○			アロマテラピー	アロマセラピーの正しい基礎知識を学ぶ。興味を持ち、さらに応用出来るように導く。 トリートメントの実践により、エステ・マッサージ関連の職種に関心を広げる。	1・後	30	1		○		○			○	
○			着付けⅠ	きものを通して日本の心と文化・きものマナーを学び、和装用語と名称・装いの理解、浴衣着つけ、無駄のない流れを身につけ着装を楽しみ、創作意欲をふくらめ応用力を身につける事を目標とする。	1・前	30	1		○		○			○	
○			着付けⅡ	きもの美学は、精神性・装飾性・機能性等が調和して成立させることを実習、技と心のスキルアップを求め、式服（留袖や振袖・色無地・袴姿等）着つけ・着せつけ・一般知識及び実技を身につける。	2・前	30	1		○		○			○	
○			伝承美	日本の伝統芸術茶道を通して、自然との関わり方を学ぶ。	1・前	30	1		○		○			○	
○			マーケティング	商品・サービスの目的を理解し、マーケティングの感性を育て、共感するセンスを磨き、取り巻く環境、市場（企業）の動き、生活者の意識の変化やニーズを気づく力を養う。	1・後	30	1	○			○			○	
○			礼法Ⅰ	日本の文化、しきたりを理解するとともに、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	1・通	30	1		○		○			○	○
○			礼法Ⅱ	礼法Ⅰを深め、相手の気持ちを察するところと慎みのあるふるまいを身につけ、円滑な人間関係を築く。	2・通	30	1		○		○			○	○
○			接遇マナーⅠ	適切な言葉遣いができ、5大行動（笑顔・挨拶・大きな声・返事・機敏な動作）が体现できるようになる。 社会に出て働く事への準備として、接遇マナーの習得と最低限の一般教養を身につける事の重要性を理解する	1・通	30	1		○		○			○	

○			接客マナーⅡ	社会に出て働くために、1年生で学んだ内容を活かしながらおもてなしの心で、更なる接客マナーを体験すると共に、品格ある行動を身につける。「販売」という1つの接客形態を通して、最低限の対応スキルを身につけ、すぐに実践に使えるようにする。	2・前	30	1		○	○			○	
○			企業研究	社会人への意識改革を促進し就職活動するための準備をする。企業などに雇用され働くことを前提として、就職活動に必要な情報収集の仕方を学び参加者全員で情報を共有する目的で学生にはプレゼンテーションの場がある。	2・前	30	1		○	○			○	
○			服飾造形Ⅰ	実技を通して、素材や副資材の知識・扱いを身につける。	1・通	30	1		○	○				○
○			服飾造形Ⅱ	春夏・秋冬とシーズンに応じたトレンド情報をファッションも含め、総合的に理解する。また、トレンド背景に紐づく情勢や文化についても知る。	2・通	30	1		○	○			○	○
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、感性だけでなく『色と商品の意味づけ』を表現、伝達できる人。提案ができる人の必要な講義とする。	1・前	60	2	○			○			○
○			パーソナルカラーⅠ	『その人の似合う色』という印象を理論的に分析し見極める力をつける。	1・後	30	1		○	○				○
○			パーソナルカラーⅡ	接客技術として、お客様に提案できる『その人の似合う色』という印象を理論的に分析、展開できる技能を取得する。	2・前	60	2		○	○				○
	○		ブライダルプロデュース	ブライダル業界のプロとして従事するために、将来の仕事に対しての意欲・意識を高め、より実践に役立つスキルを習得し、企業から求められる社会人基礎力を養う	2・通	60	2		○	○				○
	○		着付けⅢ	成人式、卒業式、婚礼やお悔やみなど今後のお仕事に繋がる扉を開きお客様に感動を与え、与えられる豊かな知識と感性を身につけることを目標とする。きもの講師3級取得を目指す。	2・後	30	1		○	○				○
	○		接客マナー検定特講	接客という仕事の基本を理解し、サービスと接客の基本とコミュニケーション技術を身につける。サービス接客検定3級取得を目標とする。	2・通	30	1	○			○			○
	○		メイクトレーニング	ビューティー業界のプロとして従事するために、将来の仕事に対しての意欲・意識を高め、より実践に役立つスキルを習得し、企業から求められる社会人基礎力を養う。	2・通	60	2			○	○			○
	○		ネイルトレーニング	JNAジェルネイル技能検定試験初級取得。プロフェッショナルなネイリストとしてのジェルネイルの知識・技術を身につける。	2・後	60	2			○	○			○
○			キャリアプランⅠ	自己理解のより就職に対する意識を高める。特にコミュニケーション能力を強化し、自己アピールを実践で練習する。社会人とのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	1・後	30	1		○	○			○	
○			キャリアプランⅡ	自己理解のより就職に対する意識を高める。特にコミュニケーション能力を強化し、自己アピールを実践で練習する。社会人とのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2・前	30	1		○	○			○	

○		産学連携プロジェクトⅠ	地域社会や企業における外部イベントに参加する過程を通し、助け合いの心やコミュニケーション力、企画力、協調性を育む。	1・通	60	2			○	○		○		
○		産学連携プロジェクトⅡ	1年次、またはこれから学ぶブライダル・ビューティー科での授業で得た技術と知識を集結させ、それを成果物として発表することで自らの技量を客観的に捉え、不足部を補い、就職に役立てる。	2・通	30	1			○	○		○		
○		卒業制作	自身のクリエイションをコンセプチュアルに魅せる手法を学ぶ。 また多種多様なアーティストと協同し、作品をディレクションする力を身につける。	2・通	120	4			○	○		○		
○		ブライダル・ビューティー特別実習Ⅰ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストを招き講演、デモンストレーション、実習などを体験し視野を広げることを目的とする。	1・通	30	1			○	○		○		
○		ブライダル・ビューティー特別実習Ⅱ	ブライダル業界、ビューティー業界のスペシャリストを招き講演、デモンストレーション、実習などを体験し視野を広げることを目的とする。	2・通	30	1			○	○		○		
	○	研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○			○	○	
	○	インターンシップ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2			○			○	○	
	○	ボランティア活動	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2			○			○	○	
		○ チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1			○	○		○		
	○	チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○		
	○	チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○		
合計			50科目	1980単位時間（66 単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		久保田 香里		〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 静岡理科大学		昭和27年3月31日		橋本 新平		〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																							
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																					
文化・教養		文化・教養 専門課程		グラフィックデザイン科		平成9年文部省告示第184号																							
学科の目的		本科は、広告・デザイン業界における総合的な学習を行い、実務能力と技術・提案力を兼ね備えた、人材の育成を目的とする。また、時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応力も身につける。																											
認定年月日		平成28年2月29日																											
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習		実習		実験		実技																	
3 年		昼間	3030時間	390時間		2340時間		300時間		0時間		0時間																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																			
180人		251人		1人		5人		45人		50人																			
学期制度		■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日				成績評価		■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																					
長期休み		■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日				卒業・進級 条件		■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																					
学修支援等		■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。				課外活動		■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動： 無																					
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 広告関連企業、Web制作会社、印刷会社、デザイン事務所、デザイン制作会社等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導。 ■卒業者数 76 人 ■就職希望者数 71 人 ■就職者数 67 人 ■就職率 94.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 88.2 % ■その他 ・進学者数：0人 ・自営業：1名 (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業年次生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>80人</td><td>76人</td></tr><tr><td>ビジネス実務マナー検定3級</td><td>③</td><td>81人</td><td>45人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・静岡新聞広告賞2020／グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞 ・静岡県知事褒章 ・第46回技能五輪国際大会日本代表選手選考会 グラフィックデザイン部門 第一位(世界大会出場内定) 第46回技能五輪国際大会日本代表選手選考会 グラフィックデザイン部門 第一位(世界大会出場内定)						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	80人	76人	ビジネス実務マナー検定3級	③	81人	45人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
AFT色彩検定3級	③	80人	76人																										
ビジネス実務マナー検定3級	③	81人	45人																										
中途退学の 現状		■中途退学者 18 名 令和2年4月1日時点において、在学者235名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者217名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、体調不良、精神的な体調不良、学業不振、経済的な理由				■中退率 7.7 %																							
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																											
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																											
当該学科の ホームページ URL		http://www.sdc.ac.jp																											

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エスディイーエンタープライス コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長 兼 プロダクトデザイン科学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和2年6月1日～ 令和3年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 13:30～15:30

第2回 令和2年11月30日(月) 13:30～15:30(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

広告・デザイン業界に就職する学生に対し、関連する業界内での仕事への取組み方（基本行動）や発想力を演習・実習を通して経験し体得することができるよう企業等との協力体制を構築し、教育内容を向上させる。同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、学校の指導体制を改善させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

グラフィックデザイン科が目指す進路である広告・デザイン業界での重要な科目について、業界の経験豊富な講師の指導を受ける。実施にあたり事前打ち合わせにより、全時間終了後の到達目標の設定、講義と演習の割振り、成績評価方法の決定を行い、これに則って授業を運営していただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	有限会社 岡本戦略広告事務所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「デザイナーが知っておくべき著作権と知的財産」(特許庁 総務部 普及支援課主催)

期間:令和3年1月8日(金) 対象:クリエイター、デザイナー

内容:デザイナーが円滑にビジネスを行い、社会で活躍するため知っておくべき著作権と知的財産の講義

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:1月5日(火) 対象:学校所属全教員

内容:中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「クリエイティブ研究会」(連携企業等:静岡県広告業協会)

期間:10月 対象:広告業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容:最新の広告事例の紹介、SNSやウェブ動画といった消費者の活動を巻き込んでの広告展開するためのヒントを得る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間:未定 対象:学校所属全教員

内容:学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 グラフィックデザイン学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2		○		○	△	○		
○			美術史	各時代ごとの価値観や流行によってどのような美術様式や作品が生まれたのかを学ぶ。また、授業内容を絵と文字を使って図解することで、まとめる力を養い、情報伝達の基礎を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの発祥や歴史を学び、デザインという行為を再認識する。また、現代に影響を与えているデザイナーについて学び、デザインワークの参考にする。	1・後	30	1	○			○			○	
○			色彩学	色彩理論の基礎を学び配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。色彩検定3級合格を目指す。	1・前	60	2	○			○		○		
○			広告概論	広告とは何か。広告制作の流れは？クリエイターの役割とは。これらの概念・枠組・実務の基本を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	
○			DTP・印刷Ⅰ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	1・後	30	1	○			○		○		
○			DTP・印刷Ⅱ	印刷の各工程におけるポイントを正しくおさえ、印刷製版における基本的な知識やルールについて習得する。	2・後	30	1	○			○		○		
○			企画論	日常生活から社会全般まで問題意識を持って課題発見する視点を養い、そこを出発点に具体的なビジネスプランを組み立てるプロセスを学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○	
○			マーケティング	ビジネスプラン作りの基本となるマーケティングの基礎知識と考え方を学ぶ。社会との接点を意識し、環境・市場・企業の動向や消費者の意識・ニーズに対する感度を磨く。	2・前	30	1	○			○			○	

○			プレゼンテーション技法	プレゼンテーションソフトウェアについて学ぶと同時に、効果的にプレゼンテーションを行う技法を学ぶ。	2・通	30	1		○		○			○	
○			広告メディア論	時代背景の中で放送や印刷媒体等の広告メディアと表現がどのように駆使されてきたかを事例研究し、時代に合った表現を見出すための「論理の組立て方」を演習を通して習得する。	2・前	30	1		○		○			○	○
○			知的所有権	著作権、意匠権、商標権、不正競争防止法等の事例や法令を通して、知的所有権に関する基本的な概念について学びます。	3・通	30	1	○			○			○	
○			デッサン・クロッキー	立方体、円柱などの幾何形態を描写することによって遠近法などをしっかり身につける。ガラス、金属、布など質感の違いを表現する技法を修得する。	1・通	90	3		○		○			○	
○			デザインスケッチ	イマジネーションを働かせ、素早く物や人物を表現する技法を身につける。	2・前	30	1		○		○			○	
○			塑像	粘土により、奥行きのある作品を造形することで、立体の感覚を身につける。	1・前	30	1		○		○			○	
○			デザイン図学	デザインワークに必要な基本的図学や図面の知識や技術の習得及び、フィニッシュワークの練成。	1・前	30	1		○		○			○	
○			平面構成	平面デザインにおける、線・形・色彩の構成をとおして、配置の基本と視覚効果について学び、アクリル絵具による着色を行なう。	1・前	60	2		○		○			○	
○			立体構成	身近な素材である「紙」を中心に、簡単なペーパークラフトの課題を進めていく中で、立体感覚・空間把握の感覚を養っていく。作業の正確さや計画性の重要性なども身に付けていく。	1・後	60	2		○		○			○	
○			表現研究	ビジュアルの表現方法は多種多様であることを理解し、その表現方法を学ぶ。また、後のMacでの制作活動に活かせるよう、表現の可能性について理解を深める。	1・前	30	1		○		○			○	
○			デザイン発想	デザインとは何かを学び、発想する脳を作り、発想し、編集し伝える感覚を養う。	1・通	60	2		○		○			○	
○			ビジュアルデザインⅠ	様々なビジュアル表現を通してデザインする意味を理解する。	1・前	60	2		○		○			○	
○			コミュニケーションデザインⅠ	線、色、形、文字、写真など、さまざまなメディアを用い、「伝わる・わかる」をテーマに、実践的な表現制作を行う。	1・前	60	2		○		○			○	
○			コミュニケーションデザインⅡ	発想の幅を広げながら、自分なりの表現切り口（斬り口）を見つけていく。	2・通	30	1		○		○			○	

○			コミュニケーションデザインⅢ	静岡新聞広告賞公募部門をととして、広告の基礎を学び課題分析力と伝わる表現力、造形力を身につける。	3・前	60	2		○	○				○	
○			コピーライティング	広告表現に欠かせないコピーの働きを理解するとともに、発想および制作の作法を身につけて、クリエイティブの質を高める。	2・前	30	1		○	○				○	
○			イラストレーションⅠ	イラストは多くの場面で登場するが、授業ではイラストレーションとは何かについて、テーマや題材を通して探究しながら学ぶ。	1・前	60	2		○	○				○	
○			タイポグラフィⅠ	レタリングについて学ぶとともに、グラフィックデザインにおける文字の重要性を知る。	1・後	30	1		○	○				○	
○			レイアウト演習	作品作りを通して、文字や写真を平面上に配置する、レイアウトの演習を行う。	1・後	30	1		○	○				○	
○			写真Ⅰ	シャッタースピード、絞り、被写界深度など、写真の基礎的項目を学びながら、カメラを操り写真を撮る事を楽しんで、自分のイメージを表現する。	1・通	60	2		○	○				○	
○			デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場での必須アプリであるデザイン系ソフトを学習し、基本的な操作方を習得する。企画書やレイアウトデザインを要する印刷物制作の技術力・応用力を身につける。	1・通	120	4		○	○				○	
○			DTP演習Ⅰ	Illustrator、Photoshopを使用し、知識と技術の理解度を高め、定着させる。現場で起こり得る様々なタイプの問題をこなすことで、印刷物の制作過程を学び、応用力をつける。	2・通	30	1	○	○		○			○	
○			Web基礎	ウェブデザインに必要な基本的なリテラシー（専門知識）と、ソフトウェアオペレーション、その他専門技術を学ぶ。	2・通	90	3		○	○				○	
○			Web実践	WEB制作の現場において即戦力の知識・技術の習得を行なう。	3・通	90	3		○	○				○	
○			セールスプロモーション	「商品」と「エンドユーザー」をつなげるための総合的なデザイン展開力を学ぶ。	2・後	30	1		○	○				○	
○			ポートフォリオ制作	就職活動に用いるためのポートフォリオの制作を行う。自分の作品をより効果的にみせるための手法を学ぶ。	2・通	30	1		○	○				○	
○			ユニバーサルデザイン	人のためのデザインを心がけられる人間力を養う。	3・前	30	1		○	○				○	
	○		メディアユニバーサルデザイン	前半の「ユニバーサルデザイン」で習得した知識や情報を実際の形に可視化するコンペティションへ参加する事で、デザイナーと社会とのつながりをより明確に意識する。	3・通	30	1		○	○				○	

○	キャラクター メディア研究	クライアントから求められるキャラクターとその役割について研究する。	3・ 後	30	1		○		○				○	
○	ビジュアル デザインⅡ	作品・モノづくり・課題に対して「完成・終了した満足から完成度を上げる意識」。モノづくり、絵づくり、アイデア創出の反復練習。	2・ 前	30	1		○		○				○	
○	ビジュアル デザインⅢ	アートと商業デザインの間にあって、創造性とビジネスの感覚を授業の中で経験しながら、実在する音楽バンドのグラフィックを製作していきます。	3・ 前	60	2		○		○				○	
○	ビジュアル デザインⅣ	さまざまなグラフィックツールを企画制作しながらデザイン能力を養う。	3・ 通	30	1		○		○			○		
○	タイポグラ フィーⅡ	グラフィックデザインにおける文字の重要性を知る。	2・ 前	30	1		○		○				○	
○	アドバタイジ ングⅠ	啓蒙広告を題材として、新聞広告の企画に近いする。モノクロ表現とカラー表現の可能性を認識する。	2・ 前	60	2		○		○				○	
○	アドバタイジ ングⅡ	店舗および施設の特長をPRするリーフレットデザインを行ない、より実践的な広告表現を学ぶ。	2・ 後	30	1		○		○				○	
○	CⅠ	企業イメージを構築するデザインについて、学習し、実際のテーマを題材として製作を試みる。	2・ 通	30	1		○		○				○	
○	広告ゼミⅠ	実際に企業から依頼される仕事を通して、クライアントの求めるモノを制作する力を養い、実践力を身に付ける。	2・ 通	60	2		○		○				○	
○	広告ゼミⅡ	企業から依頼される仕事を通して、クライアントの求めるモノを制作する力を養い、実践力を身に付ける。実際に、大道芸ワールドカップin静岡のポスター制作を行う。	3・ 通	60	2		○		○				○	
○	ソーシャル デザイン	”デザインのチカラによる社会問題の解決”をテーマに広告を企画し、プレゼンテーションを行う。	3	30	1		○		○				○	
○	パッケージ デザインⅠ	パッケージの機能や基本的な素材と技術に関する知識を演習課題を通じて体験し、考察する。	2・ 前	30	1		○		○				○	
○	パッケージ デザインⅡ	2年次に学習したパッケージデザインの力をより高め、完成度の高い作品作りを目指す。	3・ 通	30	1		○		○				○	
○	デザイン アプリケーション Ⅱ	現場での活用頻度も多くなっているInDesignの基本的な知識や操作方法を習得する。また、ページもののレイアウトデザインを学ぶことで、雑誌等の印刷物への応用力を身に付ける。	2・ 前	60	2		○		○				○	

	○		デザイン アプリケーションⅢ	M a cを用いて動画編集等に使用するアプリケーションについて学習する。	2・通	60	2		○	○	○			
	○		DTP演習Ⅱ	DTPアプリケーションIllustrator、Photopshopを使用し、印刷物の実習課題を制作。オペレーション、デザイン知識を学習する。	3・通	30	1		○	○				○
	○		DTP演習Ⅲ	DTPアプリケーションIllustrator、Photopshopを使用し、印刷物の実習課題を制作。オペレーション、デザイン知識を学習する。	3・通	30	1		○	○				○
	○		エディトリアル デザイン	現場で使用するInDesignの基本的な知識や操作方法を習得する。また、ページもののレイアウトデザインを学ぶことで、雑誌等の印刷物への応用力を身に つける。	3・後	90	3		○	○	○			
	○		イラストレー ションⅡ	イラストレーションⅠ で学んだ基本を基に新たな技法または表現方法を学ぶ。	2・通	30	1		○	○				○
	○		イラストレー ションⅢ	各種画材による完成原稿制作までの行程を体験する。イラストレーション制作に必要な発想を視覚化する感性と各種画材の技法を学ぶ。	3・前	30	1		○	○				○
	○		デジタル イラスト	ペン・タブレットを用い、その設定方法やデジタル描画技術を学ぶ。ペイントソフトとペン・タブレットの組み合わせによる新しい画材を体験する場として捉えてほしい。	2・後	30	1		○	○				○
	○		キャラクター デザインⅠ	キャラクターを創造する思考方法の確立と、それに伴う思考と技術の習得を行なう。	2・後	30	1		○	○				○
	○		キャラクター デザインⅡ	2年次までの学習成果を持って、キャラクターデザインコンペに参加する。	3・後	30	1		○	○				○
	○		コミック イラスト	動きのあるマンガのイラストをデジタルで描く。	3・後	30	1		○	○				○
	○		写真Ⅱ	デザインをする過程において 写真の撮り方(カメラマンへの指示の方法)を理解した上で、紙面構成出来る様にする。	2・前	30	1		○	○				○
	○		写真Ⅲ	写真Ⅰ・Ⅱで得た知識・技術を元に、自らの意図するデザインに使用するための作品を撮影できる技術を身につける。	3・後	30	1		○	○				○
	○		現像技術	デジタルでの現像方法を学ぶことで適切な補正方法を理解する。	2・後	30	1		○	○			○	
	○		コマーシャル フォト	細やかなテクニックを駆使し 物のシズル感を表現出来る様に作る。	3・前	30	1		○	○				○

	○		ファッション フォト	写真 I で得た基礎知識を元に、自らの意図通りにファッション風作品を撮影できる技術を身につける。	2・後	30	1		○	○			○	
	○		3Dデザイン	3DCGによるモーショングラフィックスに必要な基本的な技術の習得となぜ3DCGが必要かを制作しながら理解する。	3・通	60	2		○	○			○	
	○		編集技術	撮影した動画をもとにコンピュータを使いデジタル的に切り貼りを行い編集する技術を習得する。	2・通	60	2		○	○		○		
	○		映像演出	ファッションショーの映像を担当。依頼を受けた内容でショーの映像編集を行い、映像制作一環のノウハウを学習する。	2・通	60	2		○	○			○	
	○		音楽演習	コンピュータを活用した音楽、音声の制作基礎を学ぶ。	2・前	30	1		○	○			○	
	○		クレイ アニメーション	クレイを用いた作品を使用し、企画から編集までの総合的取り組みを学習する。	2・通	60	2		○	○			○	
	○		アニメーション 基礎	アニメーションとは何か。動きをスムーズにするために必要な基礎知識を学ぶ。	2・前	30	1		○	○			○	
	○		インタラクティブ デザイン	Webメディアを主軸に、インタラクティブコンテンツやインターフェイスデザインについて考える。	2・後	60	2		○	○			○	
	○		モバイル コンテンツ 制作	マルチデバイスへ対応したコンテンツ制作の需要は、昨今急速に増加している。本授業ではスマートフォンに焦点を当て、デバイスの特性についての理解とコンテンツ制作の基本知識から応用までを学習する。	3・通	60	2		○	○			○	
	○		CM制作	学校CMの制作を通して、CM制作の考え方・制作方法等を学習する。	3・前	60	2		○	○			○	
	○		Web マーケティング	HTML・CSSをより理解し、実践的なウェブデザインの能力・技術を習得する。ウェブ上でのマーケティング構築までが出来るようになる。	3・前	30	1		○	○			○	
	○		Web プログラミング	HTML／CSSに加え、JavascriptやPHPなどのプログラミング言語を使用して様々なウェブコンテンツを制作。プログラミングの基本概念からその応用までを学習する。	3・前	60	2		○	○			○	
	○		Webゼミ	3DCGによるモーショングラフィックスに必要な基本的な技術の習得なぜ3DCGが必要かを制作しながら理解する。	3・後	60	2		○	○			○	
	○		アニメーション 実習	さまざまなアニメーションの仕組みについて実習を通して理解します。	3・後	60	2		○	○			○	

○		映像ゼミ	今までに学習した映像制作の知識をベースに映像コンテンツの企画・制作を行う。	3・前	60	2		○		○				○	
○		ストーリー構成Ⅰ	16ページの漫画作品を描くことで「企画力」「アイデア出し」「プレゼン力」を高める。	2・前	30	1		○		○				○	
○		ストーリー構成Ⅱ	漫画作品を描くことで「企画力」「アイデア出し」「プレゼン力」を高める。	3・前	30	1		○		○				○	
○		マンガ技法	基本的な漫画制作技術を身に付ける。漫画検定受験のための技術を学ぶ。	2・前	60	2		○		○				○	
○		背景画	マンガ制作における基本的な背景を描く技術を習得する。	2・後	30	1		○		○				○	
○		マンガ制作Ⅰ	16ページの作品を制作しながら、マンガ制作に必要な知識・技術・要領を体得する。	2・後	60	2		○		○				○	
○		マンガ制作Ⅱ	アプリケーション（コミックスタジオ）を使い、ペンタブレットによるマンガ制作技術を習得する。デジタル制作に興味を持つ。	2・後	30	1		○		○				○	
○		マンガ制作Ⅲ	アナログ、デジタルを融合させ、マンガを生かした広告作品制作に取り組む。	3・通	90	3		○		○				○	
○		マンガゼミ	ストーリー構成で作上げたネームを元にデジタルでマンガを描く。デジタルの利点を学び体得出来るようにする。	3・後	90	3		○		○				○	
○		サインデザイン	サイン計画を構築し、サイン制作を行う。	2・通	30	1		○		○				○	
○		映像制作	イベント映像制作の技法を学ぶ。	2・通	30	1		○		○				○	
○		ビジネスアプリケーション	ワープロ・表計算ソフトの使用方法を学ぶ。	3・前	30	1		○		○			○		
○		キャリアプランⅠ	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学び、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化することで、今後の就職活動における面接に備える。	2・通	30	1	○			○				○	
○		キャリアプランⅡ	自分自身の強みを知り、自己PRを実践する。コミュニケーション能力を強化を重視し、特に就職活動に直接結び付くための社会人意識を身につける。	3・前	30	1	○			○				○	

○			産学連携 プロジェクトⅠ	連携先企業よりテーマ提供を受け、デザインを 使って問題解決にあたる。	1 ・ 後	30	1		○		○		○	○	
○			産学連携 プロジェクトⅡ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方 や行動までデザインすることを通して地域の未来 を支える力を育てる。	2 ・ 後	60	2		○		○		○	○	
○			産学連携 プロジェクトⅢ	地域貢献を題材として、仕掛けや仕組み、考え方 や行動までデザインすることを通して地域の未来 を支える力を育てる。	3 ・ 前	60	2		○		○			○	
○			卒業制作 テーマ研究	卒業制作のテーマとなるふさわしい内容を考え、 分析し、卒業制作につなげる。	3 ・ 前	30	1		○		○		○	○	
○			卒業制作	3年間で身につけた技術の集大成としての卒業制 作。各自、テーマ研究から導きだした各自のテー マから企画デザインを行う。	3 ・ 後	150	5		○		○		○	○	
○			卒業制作 展示計画	卒業制作作品を効果的に演出、展示する。	3 ・ 後	60	2		○		○		○	○	
	○		研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、 見聞を広めるとともに、一方で日本の優れ たところを理解し、今後の生活に生かす。	2 ・ 後	60	2			○		○			
	○		ボランティア 活動Ⅰ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマイン ドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上 を図る。	2 ・ 通	60	2			○		○	○		
	○		ボランティア 活動Ⅱ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマイン ドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上 を図る。	3 ・ 通	60	2			○		○	○		
	○		インターン シップⅠ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行 う。	2 ・ 通	60	2			○		○	○		
	○		インターン シップⅡ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行 う。	3 ・ 通	60	2			○		○	○		
		○	チャレンジ プログラム Ⅰ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1 ・ 通	30	1		○		○		○	○	
	○		チャレンジ プログラム Ⅱ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2 ・ 通	30	1		○		○		○	○	
	○		チャレンジ プログラム Ⅲ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2 ・ 通	30	1		○		○		○	○	

○	チャレンジ プログラム Ⅳ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3 ・ 通	30	1	○	○	○	○		
○	チャレンジ プログラム Ⅴ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテ ストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に 繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3 ・ 通	30	1	○	○	○	○		
合計		111科目	3030単位時間(101単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が 年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養 専門課程	プロダクトデザイン科	平成12年文部省告示第15号																												
学科の目的	本科は、家具や照明器具、雑貨、ステーションナリー、ホビー、アクセサリなど、日常生活の中で使われる様々な製品の企画・デザインから制作するまでのプロセスを学び、モノ作りを総合的に行うことができる人材の育成を目的とする。																														
認定年月日	平成28年2月29日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3 年	昼間	2940時間	330時間	2520時間	90時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
60人	53人	0人	4人	34人	38人																										
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																											
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																											
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動：無																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) プロダクトデザイナー、家具デザイナー、雑貨デザイナー、ジュエリーデザイナー、家具企画販売、CADオペレーター、家具職人、伝統工芸職人等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導。 ■卒業者数 22 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 20 人 ■就職率 95.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 90.9 % ■その他 % ・進学者数：0人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>レタリング検定2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>レタリング検定3級</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>実務マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>PD検定2級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ふじのくに未来デザイン2020 優秀賞 I LOVEしずおか 雨の日の買い物を促すロゴマークデザイン採用				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	23人	20人	レタリング検定2級	③	2人	2人	レタリング検定3級	③	24人	22人	実務マナー検定3級	③	22人	17人	PD検定2級	③	20人	15人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
AFT色彩検定3級	③	23人	20人																												
レタリング検定2級	③	2人	2人																												
レタリング検定3級	③	24人	22人																												
実務マナー検定3級	③	22人	17人																												
PD検定2級	③	20人	15人																												
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 令和2年4月1日時点において、在学者60名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者60名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		■中退率 0 %																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

プロダクトデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エステイター・エンタープライズ コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長 兼 プロダクトデザイン科学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和2年6月1日～ 令和3年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 13:30～15:30

第2回 令和2年11月30日(月) 13:30～15:30(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

商品・製品が作られていく過程を学べるように、商品企画、アイデア展開、図面制作、モデル制作、プレゼン資料制作等の実際の業務に携わり、職業人としての基本知識を身につけることができる内容としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。授業は企業講師が打合せに基づき実施し、授業終了後には企業講師が打合せした評価指標に沿って成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
家具デザイン	クライアントを設定し、より現実的な家具デザインの提案を行なうことで、より実践的なデザイン能力を養う。	有限会社 環プロダクツ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Adobe Education Forum Online 2020新しい価値を作り出すCreativity」（連携企業等：Adobe Education Forum事務局）

期間：2020年8月 対象：クリエイター、デザイナー

内容：「学生の創造性を高める探求型学修とツール」～映像フィールドワークによる教育実践を通して～

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：1月5日（火） 対象：学校所属全教員

内容：中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JIDAデザインセミナー」（連携企業等：日本インダストリアルデザイナー協会）

期間：未定 対象：インダストリアルデザイナー、プロダクトデザイナー

内容：日本インダストリアルデザイナー協会が主催する会員向けのセミナーを受講し、授業運営の参考にする

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：未定 対象：学校所属全教員

内容：学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程プロダクトデザイン学科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○	○	
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○	○	
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2		○		○	△	○	○	
○			デッサン	遠近法がどのようなものであるかを理解する。 また、3次元で空間に存在する形を正確に描写する力を身につける。	1・前	60	2		○		○			○	
○			アイデアスケッチ	レタリング技能検定に挑戦し、文字の基本とデザイン用具の使用方法を習得する。また様々な画材を使い、手描きスケッチ技術を習得する。	1・前	60	2		○		○		○		
○			デザイン図学Ⅰ	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・前	60	2		○		○			○	
○			デザイン図学Ⅱ	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインしたプロダクトをJIS規格に沿って三面図化する。	2・前	30	1		○		○			○	
○			平面構成	立体・空間デザインに共通する発想・表現・配置・配色の基本を、様々な平面課題を通して学ぶ。	1・通	60	2		○		○			○	
○			伝統技法	竹細工・漆・染色・指物・挽物・・・静岡には優れた伝統工芸士が多く存在する。研ぎ澄まされた技術とモノづくりに対する考え方、そして伝統技術と今後のモノづくりが向かうべき道とはなにかを学ぶ	2・後	30	1		○		○			○	
○			塑像	基本的な観察力を養う。 自然な形のトレースを通して立体的な表現力を身につける。	1・通	60	2		○		○			○	
○			立体構成	三面図を読み取りながら実際の形状がどのようなになっているかを実際に制作し、多角的な立体構成力を身につける。	1・通	60	2		○		○		○	○	

○			構造基礎	一般的な物の構造を分解、組立などを通して学ぶ。構造体を考える時にどうすればバランスを保てるかの感覚を磨く。	2・通	30	1		○	○			○	
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・通	60	2	○		○			○	
○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにする。	1・前	30	1	○		○		○		
○			巨匠デザイン学	個性ある新旧の巨匠たちのデザインをとおして、その時代背景、デザインの成り立ち、製作のプロセスを知る。	2・前	30	1	○		○			○	
○			国際化論	日本固有の文化や美意識を客観的にとらえ、国際的にみた現代日本に対する評価を認識し、又、文化の多様性を理解したうえで、実習課題を通してデザインにおける国際的な視点や考え方を学ぶ。	3	30	1	○		○			○	
○			デザイン発想Ⅰ	デザインの基礎となる発想する力を養うために、調べる習慣、考える習慣、スケッチする習慣を身につける。	1・通	60	2		○	○			○	
○			デザイン発想Ⅱ	現役デザイナーの外部講師により、プロデザイナーの発想法や観点を習得する。	2	30	1		○	○			○	
○			商品企画	クライアントを設定し、社内デザイナーとして、または外部デザイナーとしてその企業に向けた商品を企画しデザインをまとめる。	2・後	60	2		○	○			○	
○			ビジネスプラン	商品開発では誰に何を提供するかがしっかり構築されなくてはならない。マーケティング手法を実際に体験しながら目的を持った商品開発の意義を理解する。	2・通	60	2		○	○			○	
○			ユニバーサルデザイン	障害の有無や年齢にかかわらず誰もが安全で快適に利用できる道具や環境を作り出すUDの理解を深めた上でヒトとモノ、ヒトと環境との関係をより良いものにするデザインを学ぶ。	3・前	60	2		○	○		○	○	
○			シューズデザイン	人間の体を支える足についての基礎知識を学ぶ。また靴をデザインすることで、靴作りのノウハウを学ぶ。	3・後	30	1		○	○		○		
○			家具デザイン	世の中の全てのモノには存在理由があり、そのモノを形にする素材及び技術が必要。基本的な存在理由（コンセプト）を形にする進め方を学ぶ。	3・前	30	1		○	○			○	○
○			ホビーデザイン	デザインの製作現場で使用されることが多い素材、スタイロフォームを使って原寸大のモックアップを製作する。その過程でスタイリングの大切さについても学ぶ。	1・後	60	2		○	○			○	
○			雑貨デザイン	雑貨の基礎知識をもとに雑貨店に必要な販売促進アイテムをリサーチし、実際の店舗を想定して試作を行う。	2・通	30	1		○	○			○	

○		インダストリアルデザイン	企業外デザイナーの立場でクライアントの意向に沿ったデザインを提案する。コンセプト作りからプレゼンテーションまでの一連の流れを理解する。	2・前	60	2		○	○			○	
○		クラフトデザイン	伝統工芸の技術や考え方を調査・学習し、現代の生活にマッチしたクラフトデザインとは何かを考え、新しいライフスタイルを提案する。	3・前	30	1		○	○			○	
○		ラッピング&ディスプレイ	顧客サービスの一環としてのギフトラッピングサービスが正しく理解し、その手法を実際の現場で使う事が出来るよう演習を行なう。	3・通	30	1		○	○		○		
○		プラスチック成型	プラスチックの成形方法を学び、この材料が今後、どの様なデザイン分野に活用出来るかを考える。	2・通	60	2		○	○			○	
○		パッケージデザイン	容器としてのパッキングから、パッケージの機能や基本的な素材と技術に関する知識を演習課題を通じて体験し、考察する。	2・後	30	1		○	○			○	
○		デザイン知識	現代のデザインの辿った道、これからのデザインの方向性を検証することでデザインとは何か？ということを考える。	2・前	30	1	○		○			○	
○		素材演習 木Ⅰ	素材としての「木」について学び、「木」についての基礎知識を得る。また、実際に木に触れてモノをつくることで、素材を体感する。	1・通	30	1		○	○			○	
○		素材演習 木Ⅱ	木の板材から実際の家具を制作するという体験を通して、木という素材を体感するとともに、その加工技術を身につける。	2・後	90	3		△	○	○		○	
○		素材演習 ガラスⅠ	素材としてのガラスの特性を学び、デザインに応用する際に必要な知識を習得する。	1・前	30	1		○	○			○	
○		素材演習 ガラスⅡ	スタンドグラス制作の基本技術を更に発展させ、「ガラス」という素材への理解を深める。	2・通	30	1		○	○			○	
○		素材演習 金属Ⅰ	身近ではあるが加工には特殊な技術が必要になる金属を実際に加工し、素材としての金属の特性や特徴を理解する。	1・前	30	1		○	○			○	
○		素材演習 金属Ⅱ	素材としての金属の基本的特性や特徴を理解した上で、アイデアを拡げ、デザインを考え、実際に製作することにより、基本的なモノづくりの流れを理解する。	2・後	30	1		○	○			○	
○		素材概論Ⅰ	多種多様ながら身近な素材であるプラスチックの基礎知識を学ぶ。	1・通	30	1	○		○			○	
○		素材概論Ⅱ	入手しやすいアクリル樹脂を使い、切断・曲げ・接着などの手加工の基本技術を習得する。	2・通	30	1	○		○			○	

○		デザインアプリケーションⅠ	デザインの現場で必須アプリであるデザイン系ソフトウェアを学習し、基本的な操作法を習得する。	1・通	120	4		○	○			○	
○		デザインアプリケーションⅡ	レイアウト技法習得による平面デザインの表現力を養い、企画書やレイアウトデザインを要する印刷物制作の応用力に結び付ける。	2・通	30	1		○	○			○	
○		デザインアプリケーションⅢ	デザインにかかせないIllustrator、Photoshopといったグラフィック系ソフトウェアの応用編を学び、見せるためのテクニックを学習する。	3・通	60	2		○	○			○	
○		デザインCADⅠ	製品をデザインし、形にしていく上で図面の制作は欠かせない。必要となるCADによる製図の描画方法を身に付ける。	1・通	60	2		○	○			○	
○		デザインCADⅡ	3D特有の操作方法、表現方法を身に付けて製品作りの理解を深める。またそれをプレゼンテーションにまで展開する。	2・通	60	2		○	○			○	
○		デザインCADⅢ	3DCADソフトのオペレーションを習得する中で、より高度な製品図面の描画法を習得する。	3・通	30	1		○	○			○	
○		ポートフォリオ制作Ⅰ	自分の情報を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できる作品集の制作手法を身につける。	2・後	30	1		○	○			○	
○		ポートフォリオ制作Ⅱ	就職活動に必要なポートフォリオをそれぞれの個性が伝わるように改善する手法を学び完成度を高める。	3・前	30	1		○	○			○	
○		プレゼンテーション技法	自分の考えを論理的にまとめる手法や、相手に分かりやすく伝えるための方法を総合的に学ぶ。	3・前	30	1		○	○			○	
○		キャリアプランⅠ	「自分自身を知ること」から始め、働くことに対する意識を高める。	1・前	30	1	○		○			○	
○		キャリアプランⅡ	特にコミュニケーション能力を強化することを重視し、様々な場面で対応できる能力形成を目的とする。	2・通	30	1	○		○			○	
○		キャリアプランⅢ	就職活動を念頭におき、面接時の対応、適正な履歴書の書き方などを体得する。	3・前	30	1	○		○			○	
○		インターンシップⅡ	企業とのコラボレーションにより企画から製品までの一連の商品開発を学ぶ。コラボレーションする企業側の要望をヒヤリングし、それにそった提案やデザインをしていき商品化を目指す。	3	30	1		○	○			○	
○		卒業制作	3年間で学んできたことの集大成として、実社会へ踏み出す前の実績をつくる。研究成果に対しては外部の人や企業からの評価を受ける。	3・通	300	10		○	○			○	○

○		卒業制作/マーケティング	「モノ」と「コト」の新しい価値を提案する「ライフスタイル提案シート」を作成、発表する。卒業研究のテーマに沿って、マーケティング活動を実施する。	3	30	1		○	○			○		
○		卒業制作/制作知識	卒業研究に取り組むにあたり、材料・素材の研究と加工の演習を実施し、各自の研究・制作に備える。プロダクト検定に基づいたデザイン開発の習得とプロダクト検定の取得を目指す。	3	60	2		○	○			○	○	
○		卒業制作/展示計画	卒業制作作品を効果的に演出、展示する。	3	30	1		○	○				○	
○		産学連携プロジェクトⅠ	外部で開催されるイベントの目的に合わせたインスタレーションを製作。発案から製作、設置までをクラス全員で力を合わせて作り上げる大切さと難しさを習得する。	1	30	1		○	○			○		
○		産学連携プロジェクトⅡ	テーマの掘り下げからコンセプト立案・レンダリング・モデリングという一連のデザインプロセスを経て、産業界であるbud brand及び関連企業にプレゼンテーションを行う。	2	30	1		○	○				○	
○		産学連携プロジェクトⅢ	地域で開催されるイベントに参加することにより、販売されるクオリティーまでのスキルアップと材料費のコスト計算による原価計算や販売方法を習得する。	2	30	1		○	○				○	
○		産学連携プロジェクトⅣ	企業と共同開発を目指し、発案から製作した作品を外部企業にプレゼンテーションすることで、よりリアルで客観的な評価を受けることができ、スキルアップを習得する。	3	60	2		○	○			○		
	○	研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○			○	○	
	○	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2			○			○	○	
	○	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	3・通	60	2			○			○	○	
	○	インターンシップⅠ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2			○			○	○	
	○	インターンシップⅢ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	3・通	60	2			○			○	○	
		○ チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1		○	○			○		
	○	チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○			○		

	○		チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○	○			
	○		チャレンジプログラムⅣ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○	○	○			
	○		チャレンジプログラムⅤ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○	○	○			
合計				70科目	2940単位時間(98単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
静岡デザイン専門学校	昭和51年3月30日	久保田 香里	〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 静岡理工科大学	昭和27年3月31日	橋本 新平	〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養 専門課程	インテリアデザイン科	平成23年文部省 告示第166号																												
学科の目的	本科は、住まいや店舗のインテリアをデザインしたり、コーディネートしたりすることができる空間デザイナーの育成を目的としており、住宅の他、街並やイベント、劇場にいたる様々な空間を効果的に表現するため、図面や模型、CGなど、多彩な提案方法を実際の制作活動を通して身につけている。																														
認定年月日	平成28年2月29日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3	年	2940時間	210時間	2730時間	0時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		単位時間																								
60人	54人	1人	3人	25人	28人																										
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																											
長期休み	■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日		卒業・進級 条件	■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																											
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。		課外活動	■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動：無																											
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) インテリアコーディネーター、インテリアデザイナー、ハウジングアドバイザー、エクステリアデザイナー、ディスプレイデザイナー、住宅・店舗設計施工等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、ポートフォリオ制作指導。 ■卒業者数 19 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 94.7 % ■その他 ・進学者数：0人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業年次生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアコーディネーター 資格試験</td><td>①</td><td>19人</td><td>1人</td></tr> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>17人</td><td>15人</td></tr> <tr> <td>AFT色彩検定2級</td><td>③</td><td>2人</td><td>2人</td></tr> <tr> <td>建築CAD検定3級</td><td>③</td><td>19人</td><td>10人</td></tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定3級</td><td>③</td><td>19人</td><td>12人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	インテリアコーディネーター 資格試験	①	19人	1人	AFT色彩検定3級	③	17人	15人	AFT色彩検定2級	③	2人	2人	建築CAD検定3級	③	19人	10人	ビジネス実務マナー検定3級	③	19人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
インテリアコーディネーター 資格試験	①	19人	1人																												
AFT色彩検定3級	③	17人	15人																												
AFT色彩検定2級	③	2人	2人																												
建築CAD検定3級	③	19人	10人																												
ビジネス実務マナー検定3級	③	19人	12人																												
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 令和2年4月1日時点において、在学者49名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者47名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため		■中退率 4.1 %																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.sdc.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

インテリアデザインに必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
波多野 浩太郎	静岡県広告業協会 理事長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
坂本 晴敏	株式会社 エステイター・エンタープライズ コンテンツセンター クリエイティブ制作部長兼デザイン室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
榊原 幸弘	有限会社サイズ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
鈴木 猪三男	ウインホーム株式会社 取締役 総務部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
塩谷 弘子	プランニングルーム 代表	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長 兼 プロダクトデザイン科学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
橋本 明奈	静岡デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
羽賀 潤平	静岡デザイン専門学校 プロダクトデザイン科	令和2年6月1日～ 令和3年3月31日	
岩崎 京子	静岡デザイン専門学校 インテリアデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 13:30～15:30

第2回 令和2年11月30日(月) 13:30～15:30(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な授業実施について協力的で、最新の技術習得に意欲的な企業を選定している。演習課題では様々なデザイン事例を活用し、新しい生活スタイルの提示法とプレゼンの方法を身につけられるよう要請している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

担当教員と企業の講師が事前に、実習内容や学習成果の評価指標等について決める。これに基づき企業講師が本校で授業を行なう。修了時には講師の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行なう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
空間デザインC(建築設備)	建築設備の用語、各設備の方式の概要、特徴及び設備計画の法令等を理解する。建築全体の省エネルギー対策で、設備が必要とされることを理解する。	(株)ビー・コンセプト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Adobe Education Forum Online 2020新しい価値を作り出すCreativity」(連携企業等: Adobe Education Forum事務局)

期間: 2020年8月 対象: クリエーター、デザイナー

内容: 「学生の創造性を高める探求型学修とツール」～映像フィールドワークによる教育実践を通して～

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間: 1月5日(火) 対象: 学校所属全教員

内容: 中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「インテリアコンシェルジュ資格認定講座(1級)」(連携企業等: 一般社団法人日本ライフスタイル協会)

期間: 未定 対象: 建築・インテリア業界従事者、クリエイター、デザイナー

内容: 家具の相談・助言業務に携わるスキルを身につけた人材育成について学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間: 未定 対象: 学校所属全教員

内容: 学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程インテリアデザイン学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅲ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身につける。	3・通	60	2		○		○	△	○		
○			立体構成	基本的な観察力を養う。 空間認識力、デッサン力を身につける。立体制作技法の基本を身につける。	1・前	30	1		○		○			○	
○			インテリアスケッチ	道具を使わなくても、打ち合わせをしながら空間をスケッチで表現する。他の授業で行う、空間のプランや表現に必要な能力を身につける。	1・前	60	1		○		○			○	
○			色彩学	色彩の基礎知識を学習し、理論的な色彩計画の提案・プランを立てる手助けとする。また、インテリア・ライフスタイルデザインにも関連付けて学習する。色彩検定習得を目標とする。	1・通	60	2	○			○			○	
○			デザイン史	デザインの歴史を学び、デザインという領域への理解を深め、デザイン活動にその考え方を活かせるようにする。	1・前	30	1	○			○		○		
○			表現演習Ⅰ (図学)	図面の意義、基本的な線の引き方を訓練する。また、実線、破線、寸法線など、それぞれの線種の意味を理解する。	1・通	120	4		○		○			○	
○			表現演習Ⅱ (図学)	図面の意義、実線、破線、寸法線などの意味を理解した上で、具体的にデザインした空間をJIS規格に沿って図面化する。	1・通	90	3		○		○			○	
○			造形演習 (構造力学)	アーチ、トラス、ラーメンなどの構造の種類から引張り、圧縮などの構造物にかかる力について学び、強度を保つための知識を学ぶ。	1・通	90	3		○		○			○	
○			素材演習Ⅰ (建築材料)	柱や壁などの構造躯体に使う材料から、内装や外装などの仕上げに使う材料まで、その種類と用途に合った基本的な使用方法を学ぶ。	1・通	120	4		○		○			○	

○			素材演習Ⅱ (建築材料)	柱や壁などの構造躯体に使う材料から、内装や外装などの仕上げに使う材料の基本的な使い方を学んだ上で、より効果的に演出する使用方法についても学ぶ。	2・通	120	4		○	○	○	○		
○			CAD・CG デザインⅠ (基礎製図)	インテリアを実現するための手書きによる製図の基礎学習をベースにコンピュータ上で作図できる能力を養う。	1・通	180	6		○	○			○	
○			CAD・CG デザインⅡ (基礎製図)	人が生活するインテリアやエクステリア等の空間設計をコンピュータ上で作図できる能力を養う。	2・通	120	4		○	○			○	
○			CAD・CG デザインⅢ (基礎製図)	卒業制作の図面制作やパース制作等において、よりリアルに表現するための3DCADテクニックを学習する。	3・通	90	3		○	○		○		
○			デザインⅠA (設計製図)	住宅設計図の表現、基礎製図の習得。インテリアを実現するための手書きによる、製図の基礎学習。	1・通	120	4		○	○			○	
○			デザインⅠB (環境工学)	環境に対する考え方の基本的知識を得、環境からデザインをどう考えたらいいいのか、空間をどのようにとらえていけばいいのか、その考え方を習得する。	1・通	120	4		○	○			○	
○			デザインⅡA (設計製図)	人が暮らす空間を設計する上で大変重要となる動線の見え方、ゾーニング、プランニングの基礎をベースに実践的な設計手法を学ぶ。	2・通	180	6		○	○		○		
○			デザインⅡB (一般構造)	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の特徴や使われる材料について理解し、的確で発展的な設計やデザインをすることができる知識を身につける。	2・通	120	4		○	○			○	
○			デザインⅢ	実践的な店舗設計が行えるよう、職業意識や空間感覚を身につける。	3・通	60	2		○	○			○	
○			空間デザインA (建築法規)	建築に係る法令等について学習。建築物は新築するときに限らず、リフォームや用途変更などにおいても遵守しなければならない項目があることを習得する。	2・前	30	1	○		○			○	○
○			空間デザインB (建築生産)	建築の現場でどのような専門技術関わっているのか、どのような管理が必要なのか、職能編成や業務編成などを理解する。	2・通	30	1		○	○			○	
○			空間デザインC (建築設備)	建築設備の用語、各設備の方式の概要、特徴及び設備計画の法令等を理解する。建築全体の省エネルギー対策で、設備が必要とされることを理解する。	3・後	30	1		○	○			○	
○			ポートフォリオ 制作	自分の情報を伝える手段として、就職面接の際に実践的に活用できる作品集の制作手法を身につける。	3・前	30	1		○	○			○	
○			プレゼンテーション 技法	自分の考えを論理的にまとめる手法や、相手に分かりやすく伝えるための方法を総合的に学ぶ。	3・前	30	1		○	○		○		

○		卒業研究 (建築計画)	2年間で学んできたことの集大成として、実社会へ踏み出す前の実績をつくる。研究成果に対しては外部の人や企業からの評価を受ける。	3・通	570	19		○	○				○	
○		キャリア プランⅠ	「自分自身を知ること」から始め、働くことに対する意識を高める。	1・前	30	1	○		○				○	
○		キャリア プランⅡ	特にコミュニケーション能力を強化することを重視し、様々な場面で対応できる能力形成を目的とする。	2・通	30	1	○		○				○	
○		キャリア プランⅢ	就職活動を念頭におき、面接時の対応、適正な履歴書の書き方などを体得する。	3・前	30	1	○		○				○	
○		産学連携 プロジェクトⅠ	外部とのコラボレーションを軸に学内だけでは体験できない課題にチームで取り組み、力を合わせて問題解決することの大切さを学ぶ。	1・通	60	2		○	○			○	○	
○		産学連携 プロジェクトⅡ	外部とのコラボレーションを軸に学内だけでは体験できない課題に取り組み、人間力（社会人基礎力）を高める取り組みを行なう。	2・通	30	1		○	○			○		
○		産学連携 プロジェクトⅢ	静岡の企業や団体を巻き込みながら、解決法を研究～発想～提案し、社会や地域への貢献を目指して取り組む。	2・後	30	1		○	○			○		
○		産学連携 プロジェクトⅣ	商品開発などのモノづくりだけにとどまらず、仕掛けや仕組み、考え方や行動までデザインできる、地域の未来を支える力を育てる。	3・前	60	2		○	○	△		○	○	
	○	研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	60	2			○		○			
	○	ボランティア活動 Ⅰ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2			○		○		○	
	○	ボランティア活動 Ⅱ	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	3・通	60	2			○		○		○	
	○	インターンシップ Ⅰ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2			○		○		○	
	○	インターンシップ Ⅲ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	3・通	60	2			○		○		○	
		○ チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1		○	○				○	

	○		チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○		○	
	○		チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1		○	○		○	
		○	チャレンジプログラムⅣ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○	○		○	
		○	チャレンジプログラムⅤ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	3・通	30	1		○	○		○	
合計				43科目	2940単位時間(98単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可(評価点60点未満)がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																			
静岡デザイン専門学校		昭和51年3月30日		久保田 香里		〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目19番15号 (電話) 054-252-1766																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																			
学校法人 静岡理工科大学		昭和27年3月31日		橋本 新平		〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333																																			
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																	
文化・教養		文化・教養 専門課程		フラワーデザイン科		平成27年文部省告示 第14号																																			
学科の目的		本科はフラワーアレンジメント等の装飾知識だけでなく、花の栽培、流通等にわたる幅広い学習をする。また、花による表現の基礎知識であるデッサンや色の知識を習得し、花で思いを表現できる実践力を育成し、花関連企業をはじめとするフラワー業界で活躍できる人材育成を目的とする。																																							
認定年月日		平成28年2月29日																																							
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習		実習		実験		実技																													
2 年		昼間	1920時間	450時間		1350時間		120時間		0時間		0時間																													
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																															
40人		36人		0人		3人		26人		29人																															
学期制度		■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日				成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 学期末までに課題提出または試験を実施、平素の授業態度等を合わせ、60点以上を合格とする。																																	
長期休み		■学年始：4月1日～4月11日 ■夏 季：7月26日～8月30日 ■冬 季：12月21日～1月6日 ■学年末：3月15日～3月31日				卒業・進級 条件		■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること ■学納金が未納でないこと																																	
学修支援等		■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 新入生に対する個別面談を始めとして、在校生においても定期的な面談を行い、学業の進捗状況を確認したり、学生生活のサポートを行ったりしている。				課外活動		■課外活動の種類 校内球技大会、国内研修旅行、海外研修旅行(令和2年度は中止) ハロウィンイベント、クラブ活動、ボランティア活動等 ■サークル活動：無																																	
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) フローリスト、ブライダルフラワープランナー、フラワーデザイナー、フラワースタイリスト、グリーンアドバイザー、園芸福祉士等 ■就職指導内容 ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身嗜み講座の実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー。 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数：0人 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業年次生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>AFT色彩検定3級</td><td>③</td><td>9人</td><td>7人</td></tr><tr><td>AFT色彩検定2級</td><td>③</td><td>2人</td><td>0人</td></tr><tr><td>ブライダルジュエライセンス</td><td>③</td><td>11人</td><td>11人</td></tr><tr><td>サービス接客検定3級</td><td>③</td><td>12人</td><td>11人</td></tr><tr><td>商業ラッピング検定3級</td><td>③</td><td>11人</td><td>10人</td></tr><tr><td>プリザーブドフラワー検定3級</td><td>③</td><td>7人</td><td>7人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・第58回技能五輪全国大会 フラワー装飾部門 銅賞 ・花の都しずおかフラワーデザインコンテスト2021 アレンジ部門 銅賞						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	AFT色彩検定3級	③	9人	7人	AFT色彩検定2級	③	2人	0人	ブライダルジュエライセンス	③	11人	11人	サービス接客検定3級	③	12人	11人	商業ラッピング検定3級	③	11人	10人	プリザーブドフラワー検定3級	③	7人	7人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																						
AFT色彩検定3級	③	9人	7人																																						
AFT色彩検定2級	③	2人	0人																																						
ブライダルジュエライセンス	③	11人	11人																																						
サービス接客検定3級	③	12人	11人																																						
商業ラッピング検定3級	③	11人	10人																																						
プリザーブドフラワー検定3級	③	7人	7人																																						
中途退学 の現状		■中途退学者 1 名 ■中途退学率 2.9 % 令和2年4月1日時点において、在学者34名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者33名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養のため ■中退防止・中退者支援のための取組 ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・スクールカウンセラーによる個別相談に応じている。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。																																							
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待生制度 特待生：授業料全額免除 準特待生A：授業料の50%免除 準特待生B：授業料の25%免除 準特待生C：授業料100,000円免除 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																																							
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																							
当該学科の ホームページ URL		http://www.sdc.ac.jp																																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

フラワー業界に必要とされる知識・技術・業界マインドを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、業界人、企業等の関係者の意見を踏まえ授業科目および授業時間の見直しを検討する。また、教育内容は業界のニーズにマッチするように常に見直し、教育課程およびシラバスの内容を改善している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業関係者と学校職員が連携して教育課程の評価と改訂を適切に行い、教育内容及び学校運営の改善と向上を図ることにより、実践的な職業専門教育を行う教育課程を編成することを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐野 純子	日本フラワーデザイナー協会常任理事 クリエイティブアートフラワーデザインスクール学院長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	①
田代 穂徳	フィオーレ田代 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
小林 廣夫	株式会社 フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	
鈴木 裕美	静岡デザイン専門学校 フラワーデザイン科 学科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月3日(月) 16:30～17:30

第2回 令和2年11月30日(月) 16:30～17:30(臨時)

第3回 令和3年3月29日(月) 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

授業計画(シラバス)の作成過程及び公表までの流れ

12月 ～ 次年度授業計画の策定

1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・シラバステンプレート配布 ・シラバスガイドライン配布

2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック

3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備

4月 ～ 授業計画(シラバス)公表

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

生花店等の実際の業務に携わり、職業人としての基本行動を理解することができる連携先を選定している。また、学生の就職希望に繋げることが可能な連携先を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に研修先より受入表を作成し、生花店で基本的な店員の振舞いを知るための実習となるよう行っている。期間中または期間後に、担当教員が巡回し指導担当者と面会し、学生の学習状況を確認する。実習後に実習評価表等の報告を受け、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ショップ研修	生花店や園芸店、生花市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	㈱KAZ企画 ㈱するが花き卸売市場 ㈱辻雄貴空間研究所 ㈱花チュール 花のむらせ ㈱日比谷花壇

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「静岡デザイン専門学校 教員研修規程」を定めており、規定に基づき、教員の資質向上、専門分野における知識・技能の向上を図るために「専攻分野における実務に関する研修」及び「指導力の修得・向上のための研修」と認められる研修をリサーチし、計画的に参加している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 フラワービジネス講座（連携企業等：日本フローラルマーケティング協会）

期間：2020年12月 対象：フラワー業界従事者

内容：フラワー業界のマーケティングについてのセミナーを受講し、今後の指導に役立てる

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：1月5日（火） 対象：学校所属全教員

内容：中高のカリキュラム改定のポイントを抑え、今後入学する学生の授業運営に役立てる

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 フラワービジネス講座（連携企業等：日本フローラルマーケティング協会）

期間：2021年5月～6月 対象：フラワー業界従事者

内容：フラワー業界のマーケティングについてのセミナーを受講し、今後の指導に役立てる

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」 学校法人静岡理工科大学専門学校グループ主催

期間：未定 対象：学校所属全教員

内容：学生指導にあたっての指導力向上のための研修を行なう。具体的な内容は、今後検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「静岡デザイン専門学校 学校関係者評価委員会規約」に則り、本委員会は、本校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 教育活動
(3) 教育活動	(3) 教育成果
(4) 学修成果	(4) 学生支援
(5) 学生支援	(5) 教育環境
(6) 教育環境	(6) 学生の募集と受け入れ
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(8) 財務	(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1)から(8)までの評価項目に対して自己評価を行い、自己評価に対して各委員より多くの意見をいただいた。これらの意見は学校評価報告書にまとめ、学内並びに学校ホームページ上で公開し、情報の共有化を図っている。学習環境・施設環境等の改善については、優先順位をつけて適宜対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
青島 千枝美	柴田千枝美事務所 代表（卒業生）	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
片瀬 浩之	静岡デザイン専門学校 後援会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者代表
塚本 雅英	伝馬町発展会 会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民代表
小林 廣夫	株式会社フローラ45小林岩夫生花店 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
松木 徳夫	株式会社 加減乗除 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
水島 佳吾	株式会社大丸松坂屋百貨店 静岡店 人財開発部	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
事務局			
久保田 香里	静岡デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
保科 康浩	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
大場 厚始	静岡デザイン専門学校 教務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員
守谷 洋子	静岡デザイン専門学校 総務課長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

公表時期: 令和3年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動、学校運営、学習成果等への理解を深めていただくため、「学校情報」並びに「学校評価報告書」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	(2)各学科の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)教育施設・設備、学校行事、様々な教育活動
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: <http://www.sdc.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養 専門課程 フラワーデザイン科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション活動Ⅰ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	1・通	60	2		○		○	△	○		
○			コミュニケーション活動Ⅱ	有意義な学生生活を過ごすために、始業式、オリエンテーション、終業式、防災訓練、球技大会、観劇等をとおして、見聞を広げ、協調性を身に着ける。	2・通	60	2		○		○	△	○		
○			IT活用Ⅰ	パソコンリテラシー教育として、インターネット、表計算、ワープロ、プレゼンテーションツールを使い自分の考えをまとめ発表することを学習する。	1・前	30	1		○	△	○			○	
○			IT活用Ⅱ	インターネット上のサービスを効率よく利用することや、SNSに拠る情報発信について学ぶ。	2・後	30	1		○	△	○			○	
○			デッサンⅠ	人に伝える手段としての『描くこと』を体得する。まずは対象を正確に捉えることからスタートする。	1・通	60	2		○		○			○	
○			デッサンⅡ	人に伝える手段としての『描くこと』をより習慣化して体得する。実践的な対象を描くことにより仕事の上でも活用できる技術を身に付ける。	2・通	30	1		○		○			○	
○			造形基礎実技Ⅰ	様々な創作活動に共通する基本的なデザイン感覚を身につける。また多くの素材や既存の作品に触れ、表現方法の幅を広げていく。	1・通	60	2		○		○			○	○
○			造形基礎実技Ⅱ	1年次で学んだ素材知識をもとに、より幅のあるデザインに発展させ、作品の質を向上し、完成度の高い制作をする。	2・通	60	2		○		○			○	
○			デザイン概論	フラワーアレンジメントをはじめ、様々な造形物をつくる際の発送の手がかりとなり、美的センスの良い作品づくりが出来るようになる。また、芸術作品の鑑賞方法が分かるようになる。	2・後	30	1		○		○			○	
○			色彩学Ⅰ	色彩理論の基礎を学び、配色法・伝達法・心理的作用等を学習する。 色彩検定3級合格を目指す。	1・後	60	2	○			○			○	○
○			色彩学Ⅱ	色彩の基本（色彩検定3級）をふまえ、更にレベルアップをねらい、色彩検定2級合格を目指す。	2・前	60	2	○			○			○	

○		カラーイメージ	色彩の知識を基礎に、顧客のニーズに応え、満足いただけるアレンジや花束等をデザインする方法を学んでいく。また、色の持つイメージと効果も学び、配色のコツを覚える。	2・前	30	1		○	○			○	
○		園芸福祉	花を通して、高齢者施設等での植物のあり方や植物を介して人と接することの役割を演習から学ぶ。	1・通	30	1		○	○	△		○	
○		フラワーアレンジメントⅠ	生産者から消費者への広い花の業界の中で様々なデザインやスタイルのバリエーションのアレンジメントを制作できるよう生花を主に、レッスン1から発展していく。	1・通	90	3		○	○			○	
○		フラワーアレンジメントⅡ	フローリストを中心に、各職業に通じる、オリジナリティ豊かな完成を一步步ステップアップしていく。(花の扱い、使用法、ブーケ、アレンジメント、オリジナル作品)	2・通	60	2		○	○			○	
○		フラワー装飾法Ⅰ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級合格を目指し、花束やアレンジの基本を身につける。また、技能五輪出場者は、2級合格を目指して訓練する。	1・後	60	2			○	○		○	
○		フラワー装飾法Ⅱ	国家試験であるフラワー装飾技能検定3級を受検し、花束やアレンジメントの基礎を身につける。	2・前	60	2		○	○			○	
○		植物知識	フラワーアレンジメントやガーデニングに必要な植物の生態に関する知識を身につけるとともに、フラワーアレンジの基礎となる花の色や形について、植物学的な知識を身につける。	1・通	30	1	○		○			○	
○		園芸Ⅰ	四季の植物の育て方と用土、肥料など園芸基礎を学ぶ事によりお客様からの園芸相談や商品解説を時代に合った方法、言葉で解説できるようになり、実習作業でより理解も深まるようになる。	1・通	60	2		○	○	△		○	
○		園芸Ⅱ	実店舗で実習する事で、店頭での対応、仕事内容が具体的に理解でき、就職後即役立つことを学ぶ。	2・通	60	2		○	○	△		○	
○		ガーデンデザイン	ガーデンデザインに限らず、エクステリア全般について紹介し、エクステリアの仕事内容を知ってもらう。	2・通	30	1		○	○			○	
○		フラワービジネス論	フラワービジネスの基本知識の習得。産地生産、市場流通、病害虫、法令の基礎的な知識を学ぶ。	1・通	60	2	○		○			○	
○		ブライダルプランナー	ブライダルプランナーとして基礎知識を習得し、全日本ブライダル協会が主催する「ジュニアライセンス検定試験」取得を目指す。	1・通	60	2	○		○			○	
○		ブライダルプランナー実践	ブライダル施設の見学や現場のそれぞれの担当者の役割について学習し、テーブルマナーについて理解を深める。	1・通	30	1	○		○			○	
○		サービス接遇	サービス業とはどのようなものかを考え、ビジネス場でのサービス接遇というもの、顧客との接し方、具体的な考え方・行動の仕方・会話方法などを学ぶ。	2・前	30	1	○		○		○		

○			接客技術	人前でも臆することなく自信を持って堂々と話ができるようにし、美しい立ち居振る舞いができ、正しい滑舌、正しい敬語を使い、好印象を与える接客ができる。	1・後	30	1		○	○			○	
○			セールスプロモーション	ラッピングペーパーやリボンの使い方、プリザーブドフラワー等で作品の製作技術を学ぶ。	1・通	30	1		○	○			○	
○			販売士講座	販売技術及び経営知識に関する能力を養成することを目的として、販売士資格3級取得を目指す。	1・後	30	1	○		○			○	
○			外国語接遇	海外研修時に役立つ英会話の習得、フランス語、イタリア語でのごくごく簡単な挨拶ができるようにする。卒業後、就職時に、店員として働いたするために、簡単な英語での接客ができるようにする。	2・後	30	1		○	○			○	
○			生け花	日本伝統の華道について学習する。流派は国風華道会・小原・池坊・草月・古流松藤会。	2・通	60	2		○	○			○	
○			ショップ実習	デザインファームにて、フラワーショップを実際に営業することを体験し、意識を高める	1・後	60	2		○	△	○		○	
○			ショップ経営	オリジナルショップを提案することを通し、会社の設立と経営について学習する。	2・前	30	1	○		○			○	
○			キャリアプランⅠ	社会人に必要な基本的ビジネスマナーを学ぶことで、今後の学生生活における心構えを身につける。さらに、コミュニケーション能力を強化し、今後の就職活動における面接に備える。	1・後	30	1	○		○			○	
○			キャリアプランⅡ	コミュニケーション能力強化を重視し、自己アピールを実践で練習する。社会人としてのマナーを身につけ、社会に出る準備をする。	2・前	30	1	○		○		○	○	
○			インターンシップⅠ	生花店や園芸店、青果市場等、お花関連企業に出向き研修先現場において業務研修を5日間行う。	2・後	60	2		○		○	○	○	○
○			産学連携プロジェクトⅠ	清水港フラワーショー及び、デザインアラモードのフラワーショップの準備とフラワーショップ実習を行う。	1・通	60	2		○	○	△	○	○	
○			産学連携プロジェクトⅡ	地域での対外イベントに参加するを通し、コミュニケーション能力の向上、責任感を持って行動することを学ぶ。	2・通	30	1		○	△	○	○	○	
○			卒業制作	フラワービジネス科の学生としての集大成。自分自身の勉強した事柄全てを一つの作品にこめて作ることによって2年間の実力を知る。	2・通	90	3		○	○			○	
○			フラワーデザイン特別講座Ⅰ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	1・通	30	1		○	○			○	

○		フラワーデザイン特別講座Ⅱ	卒業生や業界の方々をはじめ、講演を聞き、視野を広げ、今後に役立てる。	2・通	30	1		○		○			○	
	○	研修旅行	訪問先の国・地域での文化や生活に触れ、見聞を広めるとともに、一方で日本の優れたところを理解し、今後の生活に生かす。	2・後	30	1		○			○	○		
	○	インターンシップⅡ	企業等にて、職場体験（インターンシップ）を行う。	2・通	60	2			○		○	○		
	○	ボランティア活動	ボランティア活動に参加し、ボランティアマインドを体得し、人間性やコミュニケーションの向上を図る。	2・通	60	2			○		○	○		
		○ チャレンジプログラムⅠ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	1・通	30	1			○	○		○		
	○	チャレンジプログラムⅡ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○		
	○	チャレンジプログラムⅢ	自分の能力をより向上させるために、外部コンテストや、企業とのコラボレーション、地域貢献に繋がるイベントにチャレンジするプログラム。	2・通	30	1			○	○		○		
合計				46科目	1920単位時間（64 単位）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目の成績評価において不可（評価点60点未満）がなく、年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であり、学納金が未納でないこと。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。